

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8220 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyl@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>

department/Top/kyouiku-i/kyouikukenkyl



学校訪問研修会に参加して

氷見市教育委員会事務局

教育次長 大門 芳 宏

今年度も、5月の北部中学校を皮切りに、学校訪問研修会が行われています。びっしりと書かれた学習指導案を見させていただいて、改めて、教えるということの大変さを認識しました。そして、実際の公開授業では、先生方の子供たちに対する熱い思いを実感することができました。子供たちにも先生の気持ちが伝わっているようで、真剣な面持ちで授業に取り組んでいました。1コマだけの授業ですが、普段からの積み重ねによる子供たちと先生との信頼関係を垣間見た気がして、大変嬉しく思いました。

そんな公開授業を拝見しながら、私の頭には、ある言葉とある光景が浮かんできました。

まず、「ある言葉」ですが、「心コロコロ」という言葉です。

大人も子供も、人の心は一所に留まらず、常に動いています。良くないことではありますが、会議や打合せなどに参加していても、本来の論題とは違ったことを考えてしまいます。どんなに興味のあることでも集中は長続きしないのが現実のようで、そのことを承知している先生は、子供の表情を見ながら、敢えて話題を変えたり、席の移動で体を動かしたりして、新しい刺激を与えつつ、集中できる環境を整えているように感じました。

もう一つの「ある光景」ですが、私の恩師のある日の行動です。

私の小学校の恩師になりますが、生活態度や人としての考え方については非常に厳しい先生でした。よく叱られた記憶がありますが、何事にも動じず、厳格で強いイメージがありました。

その光景は、学級活動の時間だったように思います。私の記憶は、窓際の席に座っておられる先生の姿から始まります。先生は、手の指を交互に組んで机の上に置

き、少し背中を丸めておられました。眉間にしわを寄せ、目線を机の少し前に向け、瞬きをせず、ある1点を見つめて。その日は、先生の表情と相反して、雲一つない快晴で、窓から差す光が先生の表情を際出させていました。「また、叱られるのかな。」と直感した私たちは、これから始まることに緊張していました。

やがて、先生は数回瞬きをした後、顔を上げ、口を開かれました。内容は、クラスの特定の子が同じクラスの数人から家族に関する悪口を言われ、仲間はずれにされていることでした。先生は、私たち一人ひとりに目を合わせながら、落ち着いた声でゆっくりと話をされました。直接関わりのなかった私は、他人事のように聞いていたような気がします。やがて、一通りの話が終わると、先生は目線を落とされました。

少しの沈黙があった後、突然、「くやしい、くやしい」という、絞り出すような声が聞こえたかと思うと、先生は、体を震わせながら泣かれました。それまで、大人が泣く姿を見たことがなく、ましてや、あの強い先生が泣くということを想像もしていなかった私は、びっくりして、頭の中が真っ白になりました。そして、その状況を何とか受け入れると、今度は恐怖心が襲って来ました。本当のところ、いじめが何故いけないのか明確には理解していなかったのだと思いますが、とにかく、「やっちはいけない、何かとてつもなく悪いことをした。」という恐怖心でした。相当ショックだったのか、先生の震える肩の動き、その時の先生の泣き声は、今でも頭から消えません。その後、先生は、私たちを叱ることもなく、私の記憶もそこで終わっています。

残念ながら、先生が思うような人にはなれていませんが、今の私の考え方に大きな影響を与えてくれたことは確かだと思っています。もうお亡くなりになりましたが、今でも尊敬する私の大切な恩師です。

とやまの子どもネット対策フォローアップ事業

児童生徒の不適切なネット利用により、犯罪被害に巻き込まれたり、いじめにつながったりすることがあります。ネットトラブルについての知識と理解を深め、対応力と未然防止対策の充実を図る必要があります。そこで、「とやまの子どもネット対策フォローアップ事業」を開催しました。

9月10日には、兵庫県立大学准教授 竹内 和雄 先生を招き、北部中学校1年生を対象とした授業を行いました。

竹内先生は、ネットの接続時間が3時間以上である場合は、「遅く寝る」「イライラする」「勉強に自信が無い」「課金する」「顔写真を投稿する」「ネット上でけんかする」「面識のない人と話す」「実際に会う」等の傾向があることをデータに基づいて説明されました。また、ネットに関わる犯罪等も紹介されました。



授業の後半には、グループごとに話し合って、「時間」「危険」「人間関係」のテーマごとにキャッチフレーズを作成しました。子供たちは、積極的に話し合い、主体的に考えていました。

ネットは、使い方を誤らなければたいへん便利なものです。今後も、ネットとの正しいつきあい方について考えていってほしいと思います。

11月19日には、比美乃江小学校において、一般社団法人 ソーシャルメディア研究会 チーフ技術指導員 竹内 義博 先生を招いて、講演会を開催する予定です。

ふるさと教材「We Love HIMI!」の配布と活用について

2学期始めに、英語版ふるさと教材「We Love HIMI!1」を小学校5・6年生に、「We Love HIMI!2」を中学生に配布しました。平成30年度外国語教育推進委員会と中教研英語部会が中心となり、ALTの協力を得て作成したものです。外国語活動・外国語科の授業や総合的な学習の時間等で活用することができるよう編集してあります。目指す児童・生徒の姿、教材の特色を紹介します。

目指す児童・生徒像

小学5・6年生 ふるさと氷見に愛着と誇りをもち、自分のお気に入りの場所や事柄について、簡単な英語を用いて紹介したり、対話したりすることができる。

中学生 ふるさと氷見に愛着と誇りをもちとともに、氷見のよさを認識し、自信をもってふるさとのよさを説明したり、ふるさとについて互いの考えを交換したりすることができる。

教材の特色

- ・中学校では、小学校で学習した内容を再度扱います。中学校版は、基本編（スピーチ形式）と発展編（読み物形式）に分けてあり、氷見市のよさを外国人に紹介するサンプルとして活用できます。
- ・ひみ番屋街のページでは、番屋街への道案内の様子が動画になって学校に配信されており、臨場感をもって学習することができます。



We Love HIMI!1

プログラミング教育出前研修の開催

2020年度から小学校でプログラミング教育が必修化となります。そこで、本市に導入されている電子黒板やタブレットPCを活用したプログラミング教育を実際に体験したり、様々なプログラミング教材等に触れたりする研修会を開催しました。本研修は、市内すべての小学校教員（約170名）に受講してほしいと考え、各小学校へ出向いての「出前研修」としました。

研修内容は、①プログラミング教育の概要（アンプラグドのプログラミング「ozobot」体験、導入の理由、ねらい、学習活動の分類、算数科と理科での扱いについて等）、②演習Ⅰ「MESH（タブレットPC使用）」、③演習Ⅱ「Scottie Go！（タブレットPC使用）」、④今後の取組に向けて（すぐにできるプログラミング教育「Scratch」「Viscuit」について等）です。受講された先生方は、熱心に、そして楽しそうに取り組んでいました。

氷見市では、ICT整備が進んでいますので、各小学校では、今年度中にビジュアル型プログラミング言語「Scratch」「Viscuit」等に取り組むことができます。今後も、ICTが日常的に扱われる学びの道具となるように、様々な研修会を行います。電子黒板やタブレット等のさらなる活用をよろしく願います。



小・中学生の力作がいっぱい！！ ＜氷見市児童生徒科学作品展覧会＞

開催期間 9月7日（土）～8日（日）

開催会場 氷見市教育文化センター 4階ホール

今年度の児童生徒科学作品展覧会には、小・中学校から85点（小学校39点、中学校46点）の力作が集まり、400名の来場がありました。自分が興味をもった自然事象について、粘り強く追究し、見事な成果を挙げた作品が出そろいました。



審査の結果、以下の4作品が、富山県科学展覧会に出品されました。

作 品 名	学校・学年	名 前	県科学展
ありにちえあり？	比美乃江小学校 2年	谷井 知歩	研究努力賞
カブトムシのかんさつ パート3	朝日丘小学校 3年	十二町 悠紀	研究努力賞
なぞのありじごく Part 3	久目小学校 5年	岡峯 悠奈	研究努力賞
水の上を転がる水球の研究Ⅳ	西條中学校 科学部	四十住 陽輝 外 16名	研究努力賞

「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業講演会（開催案内）

KNB販促事業部（富山市出身・シドニー五輪水泳競技日本代表）

荒瀬 洋太 氏 講演会

「“挑戦”することの大切さ
～自分の可能性を信じてみよう～」

開催日時 11月13日（水）13時50分～

開催会場 ふれあいスポーツセンター

荒瀬洋太氏が、オリンピック選手、そしてアナウンサーとして経験されたことを語ってくださいます。



新規採用教員 — 半年を振り返って —

子供たちの言葉に支えられて

比美乃江小学校 小松 佳太



「叱ってくれてありがとう」あるとき自分のクラスの子供から言われた言葉だ。初任者として初めて子供たちの担任となり、成功と失敗を繰り返す毎日である。自分がした指導がこれでよかったのかどうかも分からないときもあった。そんなときに言われたこの言葉は、教師としての自分をいつも支えてくれている。まだ未熟な教師ではあるが、それでも「先生、聞いて聞いて」「先生、教えて」と声をかけてくれ、自分を必要としてくれるクラスの子供たちには感謝しかない。子供たちの言葉や声に支えられながら、日々自分を成長させていくことができる教師でありたい。

根気強く

比美乃江小学校 戸圓 愛



手探りで1年生を担当して半年が過ぎた。1学期は、授業が思うようにできないだけでなく、小学校でのルールを子供たちに定着させることができずに苦しんだ。そんな時、先輩の先生方から励まされ、助けられたことで、子供たちと根気強く関わり続けることができた。2学期に入り、連絡帳を丁寧な字で書けるようになってきたり、「ありがとう」「手伝うよ」などの温かい言葉を使えるようになってきたり、少しずつ子供たちの成長を感じられるようになってきた。そんな様子を見て、私も嬉しくなり、元気が出た。これからも子供に寄り添い、根気強く丁寧な関わりを心がけ、子供と共に成長し続ける教師でありたい。

新規採用教員の半年を振り返って

窪小学校 細口 泰葉



4月から教員として過ごし、半年が経過した。小学生の頃から教員という職業に憧れ、「いつかは自分も先生になりたい」という思いをもち、夢を追いかけてきた。そして今、自分の生まれ育った氷見市で教員として子供の成長に関わることができ、毎日を幸せに感じている。教員としての日々は挑戦の連続であり、その経験の全てが自分を成長させてくれる。周りの先生方の大きなサポートや子供たちの笑顔のおかげでこの半年を乗り越えることができた。やりがいのある教員になれたことに感謝し、これからも精一杯精進していこうと決意を新たにしている。

「常に考える教師」

宮田小学校 林 一学



憧れの教職に就き、約半年が過ぎた。希望を胸に授業を進めているが、理想と現実の差をうめようともがく毎日である。子供たちは今日の授業を理解できたか、発問は分かりやすかったか、声かけは足りていたか…。振り返ると、反省点が見えてくる。しかし、生き生きと学習課題に取り組む、「できたよ」と嬉しそうに声をかけてくる子供たちの表情を見ると、もっともっと子供たちに学ぶ喜びを感じさせたい、そんな意欲が湧いてくる。

本校の重点目標は「常に考える」である。子供たちのもつ可能性を見だし、最大限に引き出すことができる教師を目指して、常に考えたい。

半年間を振り返って

北部中学校 石川 智大



私は、校務分掌としてスクールバスに関する業務を担当している。学校全体の流れを見ながら、見通しをもって運行時刻を調整することを心掛けている。時々、急な変更が生じることがあるが、運転手の方が可能な限り柔軟に対応してくださるおかげで、生徒たちは思う存分活動することができている。学校の教育活動は、そのような教職員以外の方を含め、様々な支えがあって行われるものであることを実感している。自分も生徒の状況に合わせて適切な対応や指導ができる教師、そして、教育活動をしっかりと支えることができる教師に成長するよう努力していきたい。

教員としての半年を振り返って

西條中学校 宮下 奈々恵



教員になり、あっという間に半年がたった。この半年間、生徒の心をつかむ魅力ある指導をされる先生や、見かけると生徒と会話している先生、生徒のほんの少しの変化を察知して話を聴く先生等、多くの先生方から一人一人の生徒と向き合うための心構えを学んだ。また、授業中の生徒の発言や表情から、授業方法について学ぶこともたくさんあった。うまくいかず、悩むこともあるが、生き生きとした生徒の顔を見ると元気が湧いてくる。これからも、生徒に向き合い、成長し続ける教員でありたい。